様式1

大学等名	修文大学
プログラム名	修文大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

健康栄養学部・管理栄養学科

③ 修了要件

「情報処理演習Ⅰ」(1単位)と「データサイエンス」(1単位)の2単位の講義を取得すること

必要最低科目数・単位数　2 科目　2 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	1	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	1	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報処理演習Ⅰ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3

データサイエンス	1	○	○	○	○						
情報処理演習Ⅰ	1	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス	4-4時系列データ解析		
データサイエンス	4-7データハンドリング		
データサイエンス	4-8データ活用実践（教師あり学習）		
情報処理演習Ⅰ	4-1統計および数理基礎		
情報処理演習Ⅰ	4-6画像認識		
情報処理演習Ⅰ	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ（1回目）
	1-6	AI最新技術の活用例（機械学習AIモデル）（13回目）（14回目）（15回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・データの種類（2回目） ・算術平均、加重平均、幾何平均、調和平均（2回目） ・クロス集計表（3回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)（1回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	最適化（8回目）
	1-5	データサイエンスのサイクル（1回目）
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護（3回目） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断）（8回目）
	3-2	・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性（3回目） ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取（3回目）

（5）実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値）（9回目） ・相関係数、回帰直線、散布図（5回目） ・クロス集計表の検定（10回目）
	2-2	・データ表現（3回目） ・データの図表表現（3回目） ・不適切なグラフ表現（3回目） ・データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ）（10回目） ・データの図表表現（チャート化）（10回目）
	2-3	・推定の考え方と信頼区間（6回目） ・データの集計（和、平均）（6回目） ・表形式のデータ（csv）（6回目）

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

データサイエンスの基礎的な知識及び技術に基づいてデータを適切に分析することなどができる。

様式1

大学等名	修文大学
プログラム名	修文大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

看護学部看護学科

③ 修了要件

「データサイエンス演習」（1単位）と「統計学」（1単位）と「保健統計学」（2単位）の4単位の講義を取得すること

必要最低科目数・単位数　3 科目　4 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス演習	1	○	○	○					
統計学	1	○	○						

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス演習	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス演習	1	○	○	○					
保健統計学	2	○	○						

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス演習	1	○	○	○					
統計学	1	○	○						

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3

データサイエンス演習	1	○	○	○	○						
保健統計学	2	○	○	○	○						
統計学	1	○	○								

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス演習	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス演習	4-8データ活用実践（教師あり学習）		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ（1回目）
	1-6	AI最新技術の活用例（機械学習AIモデル）（13回目）（14回目）（15回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・データの種類（2回目） ・算術平均、加重平均、幾何平均、調和平均（2回目） ・クロス集計表（3回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（1回目） ・仮説検証（11回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	最適化（8回目）
	1-5	データサイエンスのサイクル（1回目）
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護（5回目） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断）（8回目）
	3-2	・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性（7回目） ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取（6回目）

（5）実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値）（9回目） ・相関係数、回帰直線、散布図（5回目） ・クロス集計表の検定（10回目）
	2-2	・データ表現（3回目） ・データの図表表現（3回目） ・不適切なグラフ表現（3回目）
	2-3	・推定の考え方と信頼区間（6回目）

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

データサイエンスの基礎的な知識及び技術に基づいてデータを適切に分析することなどができる。

様式1

大学等名	修文大学
プログラム名	修文大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

医療科学部

③ 修了要件

「情報科学」（1単位）と「データサイエンス」（1単位）の2単位の講義を取得すること

必要最低科目数・単位数　2 科目　2 単位　履修必須の有無　令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス	1	○	○	○					
情報科学	1	○	○						

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス	1	○	○	○					
情報科学	1	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス	1	○	○	○					
情報科学	1	○	○						

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス	1	○		○					
情報科学	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3

データサイエンス	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス	4-8データ活用実践（教師あり学習）		
情報科学	4-1統計および数理基礎		
情報科学	4-6画像認識		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会（1回目） ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方（1回目） ・AI（人工知能）とは（12回目）
	1-6	・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など）（13・14・15回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど（2回目） ・1次データ、2次データ、データのメタ化（2回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり（1回目） ・仮説検証（11回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など（13回目）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（1回目）
（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護（5回目） ・AI社会原則（公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断）（8回目）
	3-2	・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性（7回目）

(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)(4回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(4回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)(4回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)(5回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い (5回目) ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)(6・7回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(8回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出(10回目)
	2-2	・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) (8回目)
	2-3	・データの並び替え、ランキング(3回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)(3回目) ・表形式のデータ(csv)(3回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスの基礎的な知識及び技術に基づいてデータを適切に分析することなどができる。

様式2

修文大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和7　年度（和暦）

②大学等全体の男女別学生数　男性 200 人　女性 644 人　（ 合計 844 人 ）

（令和6年5月1日時点）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
健康栄養学部　管理栄養	148	60	300	33	33											33	11%
看護学部　看護学科	432	100	400	98	98											98	25%
医療科学部　臨床検査学	264	80	360	61	61											61	17%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	844	240	1,060	192	192	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	192	18%

様式3

大学等名 修文大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 50 人 非常勤 52 人

② プログラムの授業を教えている教員数 3 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）相撲　佐希子 （役職名）看護学部長・ 教育DX推進委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

評議会

（責任者名）丹羽　利充 （役職名）学長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

評議会規程・修文オンライン教育センター規程

⑥ 体制の目的

本プログラムは、修文大学の全学的教育方針のもと、各学部における必修科目として体系的に提供し、学生が医療・福祉分野を含む多様な領域で必要となる数理・データサイエンス・AI活用能力を着実に育成することを目的とする。また、教育の質を継続的に保証・向上させることを重視し、定期的な自己点検・評価を通じてプログラム全体の改善サイクルを確立している。

本プログラムに関わる各科目の点検・評価については、修文大学自己点検・自己評価委員会が責任をもって実施し、その結果を基に教育内容・方法の改善を進める。さらに、プログラム全体の改善方針や高度化については評議会において最終的に審議し、全学的な教育質保証の枠組みの中で、学生に対して一貫した質の高い学修機会を提供している

⑦ 具体的な構成員

【評議会】次の委員をもって構成する。
（1）委員長　丹羽　利充　修文大学学長
（2）構成員
①修文大学健康栄養学部管理栄養学科　学部長　近藤　浩代
②修文大学看護学部看護学科　学部長、教育DX推進委員会　委員長
相撲　佐希子
③修文大学医療科学部臨床検査学科　学部長　磯部　健一
④修文大学健康栄養学部管理栄養学科　教授　山下　照夫
⑤修文大学医療科学部臨床検査学科　教授　越川　卓
⑥修文大学　事務局長　寺尾宏之
⑦修文大学　事務局　教務科長　松尾彰人
⑧修文大学　事務局　学生支援センター長　江嵜宏史
⑨修文大学　事務局　広報入試課　瀬辺　康夫

【教育DX推進委員会】
委員長1名（相撲佐希子）、委員9名、計10名

委員長1名（相撲任希子）、委員9名、計10名

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	#REF!	令和7年度予定		令和8年度予定	
令和9年度予定		令和10年度予定		収容定員（名）	#REF!

具体的な計画

本教育プログラムの対象科目は、現在、全学部の必修科目として開講されており、入学者全員が体系的に履修できる体制を整えている。
今後は、より一貫した学修機会を全学的に保障するため、当該科目群を共通教育科目として再編・位置づける検討を進める。

これに伴い、教育DX推進委員会を中心に、各学部からの意見収集や学修成果の分析を踏まえ、科目内容の標準化・高度化を計画的に進める。
さらに、履修支援体制や学修環境の整備を促進し、全学生が確実に受講できるよう履修導線の改善を図ることで、履修者数および履修率の一層の向上を目指す。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムに関連する科目は、現在、各学部における必修科目として開講されており、学部・学科に関わらず全学生が確実に履修できる体制が整っている。
今後も、全学必修として位置づけた運用を継続することで、希望する学生全員が漏れなく受講できる体制を維持する。

さらに、教育DX推進委員会を中心に、科目間の内容統一や学修環境の整備、教育方法の標準化を進めることで、学部横断的な履修保証をより一層強化する。これにより、全学生に対して均質かつ質の高い学修機会を提供し、数理・データサイエンス・AIに関する学修機会の確保を計画的に推進する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムは必修科目として位置付けるが、より確実に履修できるよう、以下の周知・支援を実施する。
1. 入学時ガイダンスや学年オリエンテーションでの説明を通じ、プログラムの意義と履修の必要性を明確に伝える。
2. 教務担当、担任、アドバイザー教員による履修相談支援を行い、履修漏れ防止と計画的な学修を促す。
3. 掲示物やポータルサイト等の活用により、学生が随時情報を確認できる環境を整える。

これらの取組により、学生が多様な方法で履修情報を得られるようにし、できる限り多くの学生が円滑に履修できる体制を確保する。

⑪　できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学生が円滑に履修し、確実に学修成果を修得できるよう、以下の支援体制を整備する。
1．科目担当および担任・アドバイザー教員による履修・学修相談体制を整え、個々の学修状況に応じた支援を行う。
2．科目担当教員と担任・各アドバイザー教員との連携による学修支援（基礎的内容の補講、学習方法の指導、個別相談）を提供し、理解の深化を図る。
3．LMSを活用した教材配信、オンデマンド資料の提供、学習進捗の可視化により、自律的な学習を促す環境を整備する。
4．定期的な確認テストやフィードバックの充実を図れるプログラムとし、学生が自身の理解度を把握しながら学修を進められるよう支援する。
5．

これらの取組により、学生が多面的な支援を受けながら確実に履修・修得できる環境を整え、学修成果の向上を図る。

⑫　授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

学生が授業内容を確実に理解し、学修成果を着実に修得できるよう、授業時間内外で以下のような学習指導体制を整備している。
1．授業時間外の質問・相談窓口の設置
教員によるオフィスアワーを明確に設定し、学生が自由に訪問・相談できる体制を整える。これにより、授業内で解決できなかった疑問点について個別に丁寧な指導を行う。
2．オンライン環境を活用した質問対応
LMSや学務情報システム等を通じて、授業外の質問受付や教材提供を行い、学生が時間や場所にとらわれず学習を進められる環境を提供する。
3．必要に応じた補講・学習支援の実施
学習到達度に課題がある学生に対しては、補講や追加の学習支援を行い、修得に向けた個別サポートを行う。
これらの取り組みにより、授業時間内外を通じて学生が継続的に学習支援を受けられる仕組みを確立し、学習理解の深化と学修成果の確実な修得を支援している。

様式４

大学等名 修文大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

自己点検評価委員会

（責任者名） 丹羽　利充　　（役職名） 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	修文大学では、健康栄養学部・看護学部・医療科学部の3学部において、本プログラムに関連する科目をそれぞれ必修科目として位置づけ、全学生が体系的に履修できる体制を確保している。 具体的には、健康栄養学部では1年次に「情報処理演習Ⅰ」1単位、2年次に「データサイエンス演習」1単位を必修としており、看護学部では1年次に「統計学」の1単位、2年次に「データサイエンス」1単位、3年次に「保健統計学」2単位を必修として配置している。また、医療科学部では1年次に「情報科学」1単位、3年次に「データサイエンス」1単位を必修科目として開講している。 これらの科目の履修状況および学修成果については、各学部が教務委員会等で実施する年度末のカリキュラムチエックに加え、大学の自己点検・自己評価委員会がプログラム全体としての履修率・修得率・教育効果を総合的に評価している。 その結果に基づき、教育内容の改善、授業方法の見直し、学習支援の強化など、継続的な改善サイクルを推進してい
	学修成果	本教育プログラムにおける学修成果は、各学部で実施している「授業評価アンケート」の結果を分析することにより、学生の理解度や授業内容に対する評価を把握している。 また、各授業科目担当教員は毎年度、自己評価・自己点検を通じて授業内容・指導方法・学修状況を振り返り、その結果を文書として提出している。 提出された自己評価結果は、各学部の学部長（評議会メンバー）が取りまとめ、授業の難易度や指導内容に課題がないかを把握している。 これらの情報は評議会において共有され、科目内容の見直し、教育方法の改善、学習支援の強化など、本教育プログラムの質向上に向けた改善策の検討に活用している。
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和7年度の学生アンケート結果を分析したところ、いずれの学部においても本教育プログラムに関連する科目の理解度は概ね良好であると評価できる。健康栄養学部では、「データサイエンス演習」平均3.96、「情報処理演習Ⅰ」平均4.33と、基礎的な情報処理科目において特に高い理解度が示されている。 看護学部においては「データサイエンス演習」が平均4.51と最も高い評価を得ており、演習形式による実践的な学修が学生の理解を促進していると考えられる。 医療科学部でも「データサイエンス」4.21と良好な結果であり、専門性の高い学修内容に対しても適切な理解が得られている。 これらの結果から、各学部における授業内容や指導方法が学生の学修理解に十分寄与していることが確認できる。また、学部間で比較しても大きな差はみられず、全学的に一定の教育水準が維持されているといえる。今後は、評価の高かった授業方法や教材の工夫を学部間で共有し、さらなる理解度向上に向けた授業改善に活用していく予定であ
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学生アンケートの結果からは、本教育プログラムに関連する科目について、概ね「後輩にも履修を推奨したい」との肯定的な意見が多く寄せられており、授業内容や学修体験が一定の満足度につながっていることがうかがえる。また、医療科学部の学生からは「データサイエンスを2年次に配置してほしい」との意見がみられ、より適切な学修タイミングで受講したいという要望が確認できた。 これらの学生意見は、学修順序や学年配置の妥当性を検討する上で重要な示唆を与えるものであり、教育内容の改善や科目配置の見直しを検討する際の参考資料として活用していく予定である。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムに関連する科目は、健康栄養学部・看護学部・医療科学部のいずれにおいても必修科目として配置されているため、現時点で履修者数および履修率は全学的に極めて高い水準で推移している。 このことから、当初の履修確保に関する計画は着実に達成されていると評価できる。 今後も、全学生が確実に学修機会を得られるよう、必修科目としての位置づけを維持しながら教育内容の標準化や授業運営の改善を進める予定である。 これにより、履修率の高さを保ちつつ、より質の高い学修体験を提供できる体制を継続的に整備していく。

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	修文大学では、各学部において卒業時に就職先の調査を実施し、卒業生の進路状況を把握している。当該科目群を教育プログラムとして本格的に運用した後は、全学的な卒後調査の項目に本プログラムに関する設問を追加することを予定している。これにより、可能な範囲で教育プログラム修了者の活躍状況や勤務先からの評価等についても情報収集を行い、今後の教育改善に活用していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本教育プログラムに対する産業界からの直接的な意見収集については、これまで十分に実施できていないのが現状である。しかしながら、医療・保健・福祉分野の動向や企業等が求めるデータ活用能力に関する情報は、各学部が実習施設や連携機関との協議、外部研修会等を通じて把握している。 今後は、産業界のニーズを教育内容へ一層反映できるよう、関係機関との連携強化や企業等からの意見収集の機会を検討し、教育プログラムの改善に活用していく予定である。
数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本教育プログラムでは、学生が数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を実感できるよう、学習への導入段階から段階的な指導を行っている。まずは基礎的で理解しやすい内容から学修を開始し、達成感が得られる課題や演習を取り入れることで、学生が主体的に学ぶ姿勢を育成している。 理解に不安がある学生に対しては、担当教員が個別指導を行うなど、丁寧な支援体制を整備し、学修のつまずきを早期に解消できるよう努めている。また、授業評価アンケートや学生からの意見を踏まえ、翌年度の授業内容・教材・指導方法の改善を図ることで、より分かりやすく効果的な授業運営につなげている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本教育プログラムでは、教育内容・水準を維持・向上させつつ、学生にとってより分かりやすく効果的な授業となるよう、教授方法や教材の改善を継続的に進めている。授業評価アンケートや自己点検・評価を踏まえ、説明方法、演習課題、授業構成の見直しを毎年度実施し、学生の理解を促進する授業改善に取り組んでいる。また、近年急速に発展する生成AIをはじめとする情報技術の進化を踏まえ、教育内容についても適宜アップデートを行う予定である。特に、AIを正しく理解し、適切に活用できる力を育成することを重視し、基本概念、利点と限界、倫理的配慮、医療・保健分野における活用例などを体系的に扱う内容へ発展させていく。実際の学修場面でAIをどのように活用すべきかを考えさせる演習や事例学習を導入し、学生が自ら判断しながらAIを適切に活用できる能力の育成を図る。 AI・データサイエンスの基礎的な知識・技能を修得し、建学の精神である「国家社会に貢献できる人材の育成」に基づき、卒業後の社会におけるAIやデータサイエンスの活用の基礎力を育成する。また、AIやデータサイエンスの進歩による社会の変化、技術の革新に対応する柔軟な力を養う。